

【平成26年入学生用】

I. 学期（セメスター）と授業時間について

経済学部における学年度は前期と後期の2学期（セメスター）に分かれ、前期は4月1日に始まって9月中旬に終わり、後期は9月中旬に始まって3月31日に終わる。

経済学部における授業は原則として学期ごとに終了し、前期に開講される科目の試験は7月下旬から、後期に開講される科目の試験は1月下旬から実施される。各学期における授業は月曜日から土曜日の6日間にわたって5時制限で行われる。なお、それぞれの授業時間は次のとおりである。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:00～10:30	10:40～12:10	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00

II. カリキュラムの構成と履修方法の概要

1. カリキュラムの構成

近畿大学経済学部の各学科の定めるカリキュラムは、教養教育科目と専門科目の2つから構成されている。教養教育科目は共通教養科目と外国語科目から成っている。それらの内訳は以下のとおりである。

[1] 共通教養科目（全学科共通）

科目群	授業科目
人間性・社会性科目群	人権と社会1、人権と社会2、暮らしのなかの憲法、現代社会と倫理、現代の社会論、芸術鑑賞入門、哲学と人間・社会、現代社会と法、現代社会と政治、現代社会と人間、自校学習
地域性・国際性科目群	地域と環境の地理学、国際化と異文化理解、日本近現代史、世界近現代史、現代世界と民族・宗教
課題設定・問題解決科目群	基礎ゼミ（必修）、日本語の技法、生命の科学、環境科学、現代社会と科学、基礎数学、キャリアデザイン
スポーツ・表現活動科目群	生涯スポーツ1、生涯スポーツ2、食生活と健康、心と体の健康

[2] 外国語科目（全学科共通）

系	授業科目
第一外国語	基幹科目
	英語1L、英語1R、英語2L、英語2R
	英語3T、英語3R、英語4T、英語4R
	オーラルイングリッシュ1、オーラルイングリッシュ2
	オーラルイングリッシュ3、オーラルイングリッシュ4
	発
	自己表現の英作文1、自己表現の英作文2
	総合英語1、総合英語2
	TOEIC1、TOEIC2
	ニュース英語1、ニュース英語2
	カルチャー英語1、カルチャー英語2
	スーパー英語（TOEIC）1、スーパー英語（TOEIC）2
	スーパー英語（SKILLS）1、スーパー英語（SKILLS）2
	アドバンストオーラルイングリッシュ1、アドバンストオーラルイングリッシュ2

（次ページへつづく）

(前ページよりつづく)

[2] 外国語科目 (全学科共通)

系		授 業 科 目
第二外国語	基幹科目	ドイツ語総合1、ドイツ語総合2、ドイツ語総合3、ドイツ語総合4
		フランス語総合1、フランス語総合2、フランス語総合3、フランス語総合4
		中国語総合1、中国語総合2、中国語総合3、中国語総合4
		韓国語総合1、韓国語総合2、韓国語総合3、韓国語総合4
	発展科目	ドイツ語コミュニケーション1、ドイツ語コミュニケーション2
		ドイツ語コミュニケーション3、ドイツ語コミュニケーション4
		ドイツ語カルチャーセミナーA、ドイツ語カルチャーセミナーB
		フランス語コミュニケーション1、フランス語コミュニケーション2
		フランス語コミュニケーション3、フランス語コミュニケーション4
		フランス語カルチャーセミナーA、フランス語カルチャーセミナーB
		中国語コミュニケーション1、中国語コミュニケーション2
		中国語コミュニケーション3、中国語コミュニケーション4
		中国語カルチャーセミナーA、中国語カルチャーセミナーB
		韓国語コミュニケーション1、韓国語コミュニケーション2
		韓国語コミュニケーション3、韓国語コミュニケーション4
		韓国語カルチャーセミナーA、韓国語カルチャーセミナーB

[3] 専門科目 (学科・コース・分野別体系)

学 科	授 業 科 目	
経済学科	経済学科体系	経済学コース 理論・計量分野 財政・金融分野 産業・情報分野 歴史・社会分野
		経済心理学コース 経済心理学コース
国際経済学科	国際経済学科体系	国際産業・金融分野 国際地域経済分野
総合経済政策学科	総合経済政策学科体系	公共政策分野 企業戦略分野

2. 履修制限と進級・卒業の要件

[履修登録制限]

履修登録できる学科目の単位数は、1学年は47単位以内、2学年は49単位以内、3学年は49単位以内、4学年は49単位以内で、所属学年以下(所属学年を含む)に配当される学科目の中から選択し履修登録するものとする。各学年の制限枠には、共通教養科目、外国語科目、専門科目が含まれるが、卒業単位にはならない教職科目や特設科目は含まれない。

学 年	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年
履修制限	47単位以内	49単位以内	49単位以内	49単位以内

[進級・卒業の要件]

上級学年への進級または卒業のためには、以下の条件を満たさなければならない。

- (1) 2学年へ進級するためには、1学年において20単位以上を修得しなければならない。ただし、上記20単位のなかには、基礎ゼミ2単位と専門科目4単位以上が含まれていなければならない。
- (2) 3学年へ進級するためには、1学年から2学年を通じて合計56単位以上を修得しなければならない。

- (3) 4 学年へ進級するためには、1 学年から 3 学年を通じて合計92単位以上を修得しなければならない。
- (4) 経済学部を卒業するためには、4 年間以上 8 年間以内の在学期間に、以下の①～③の条件を満たす合計128単位以上を修得しなければならない。

① 共通教養科目 (16単位以上)

共通教養科目の各科目群から、それぞれ 1 単位以上修得しなければならない。なお、この16単位のなかには、基礎ゼミ 2 単位 (課題設定・問題解決科目群) が含まれていなければならない。

② 外国語科目 (20単位以上)

外国語科目20単位のなかには、第一外国語14単位以上が含まれていなければならない。

③ 専門科目 (下記の条件を満たす92単位以上)

次の条件ア、イを満たす合計92単位以上を修得しなければならない。

ア	学部共通科目から14単位以上を修得しなければならない。この14単位のなかには演習 I (必修、4 単位) と演習 II (必修、4 単位) が含まれていなければならない。
イ	学科共通科目から28単位以上を修得しなければならない。この28単位のなかには学科共通科目 (情報専門科目) 8 単位以上が含まれていなければならない。

卒業要件の表

科 目		修得すべき単位数				
教 養 教 育 科 目	共通教養科目	人間性・社会性科目群 地域性・国際性科目群 課題設定・問題解決科目群 スポーツ・表現活動科目群	16単位以上 (各科目群からそれぞれ 1 単位以上を含む) (基礎ゼミを含む)	36単位 以上	128単位 以上	
	外国語科目	第一外国語 (英語)	14単位以上			あわせて 20単位以上
		第二外国語				
専 門 科 目	ア. 学部共通科目		14単位以上 (演習 I、演習 II を含む)	あわせて 92単位 以上		
	イ. 学科共通科目		28単位以上 (情報専門科目 8 単位以上を含む)			
	コース科目、他コース・他分野科目、 分野科目、他分野科目、他学部互換 科目、「大学コンソーシアム大阪」互 換科目					

(5) 卒業単位認定

他学部単位互換科目・大学コンソーシアム大阪単位互換科目の修得単位について

法学部・経営学部・文芸学部の単位互換科目の修得単位と大学コンソーシアム大阪の単位互換科目の修得単位は、合計 8 単位まで専門科目の卒業単位として認定することができる。

他学部互換科目、大学コンソーシアム大阪の互換科目の履修については、Vを参照せよ。

Ⅲ. 教養教育科目（共通教養科目・外国語科目）の履修

1. 共通教養科目の単位数と配当学年

科目群	授業科目	単位数	配当学年
人間性・社会性科目群	人権と社会1	2	1
	人権と社会2	2	1
	暮らしのなかの憲法	2	1
	現代社会と倫理	2	1
	現代の社会論	2	1
	芸術鑑賞入門	2	1
	哲学と人間・社会	2	1
	現代社会と法	2	1
	現代社会と政治	2	1
	現代社会と人間	2	1
	自校学習	1	1
	地域性・国際性科目群	地域と環境の地理学	2
国際化と異文化理解		2	1
日本近現代史		2	1
世界近現代史		2	1
現代世界と民族・宗教		2	1
課題設定・問題解決科目群	基礎ゼミ(必修)	2	1
	日本語の技法	2	1
	生命の科学	2	1
	環境科学	2	1
	現代社会と科学	2	1
	基礎数学	2	1
	キャリアデザイン	2	1
スポーツ・表現活動科目群	生涯スポーツ1	1	1
	生涯スポーツ2	1	1
	食生活と健康	2	1
	心と体の健康	2	1

授業形態

共通教養科目は前期または後期週1回の授業である。ただし、「自校学習」は通年にわたり不定期に行われる。

2. 共通教養科目の履修方法

共通教養科目の履修については、Ⅱの2の「進級・卒業の要件」に示した規定に加え、以下の細則を設ける。

- ① 履修登録はクラス制を採用することがある。
- ② 共通教養科目のうち、**基礎ゼミ(必修)**は1年前期の指定されたクラスで必ず履修登録をし、**単位修得しなければならない**。ただし、**基礎ゼミ(必修)**の不合格者は1年後期に履修登録をし、**単位修得しなければならない**。また、**基礎ゼミ**の授業には4分の3以上の出席が必要である。
- ③ 共通教養科目については、上記の**基礎ゼミ**を含め各科目群からそれぞれ1単位以上修得しなければならない。

3. 外国語科目の単位数と配当学年

第一外国語の単位数と配当学年

	授 業 科 目	単位数	配当学年
基 幹 科 目	英語 1 L	1	1
	英語 1 R	1	1
	英語 2 L	1	1
	英語 2 R	1	1
	英語 3 T	1	2
	英語 3 R	1	2
	英語 4 T	1	2
	英語 4 R	1	2
	オーラルイングリッシュ 1	1	1
	オーラルイングリッシュ 2	1	1
	オーラルイングリッシュ 3	1	2
	オーラルイングリッシュ 4	1	2
	発 展 科 目	自己表現の英作文 1	1
自己表現の英作文 2		1	3
総合英語 1		1	3
総合英語 2		1	3
TOEIC 1		1	3
TOEIC 2		1	3
ニュース英語 1		1	3
ニュース英語 2		1	3
カルチャー英語 1		1	3
カルチャー英語 2		1	3
スーパー英語 (TOEIC) 1		1	3
スーパー英語 (TOEIC) 2		1	3
スーパー英語 (SKILLS) 1		1	3
スーパー英語 (SKILLS) 2		1	3
アドバンストオーラルイングリッシュ 1		1	3
アドバンストオーラルイングリッシュ 2	1	3	

授業形態

外国語科目は前期または後期週 1 回の授業である。

第二外国語の単位数と配当学年

		授 業 科 目	単位数	配当 学年			授 業 科 目	単位数	配当 学年
ドイツ語	基幹科目	ドイツ語総合1	1	1	中国語	基幹科目	中国語総合1	1	1
		ドイツ語総合2	1	1			中国語総合2	1	1
		ドイツ語総合3	1	2			中国語総合3	1	2
		ドイツ語総合4	1	2			中国語総合4	1	2
	発展科目	ドイツ語コミュニケーション1	1	2		発展科目	中国語コミュニケーション1	1	2
		ドイツ語コミュニケーション2	1	2			中国語コミュニケーション2	1	2
		ドイツ語コミュニケーション3	1	3			中国語コミュニケーション3	1	3
		ドイツ語コミュニケーション4	1	3			中国語コミュニケーション4	1	3
		ドイツ語カルチャーセミナーA	1	3			中国語カルチャーセミナーA	1	3
		ドイツ語カルチャーセミナーB	1	3			中国語カルチャーセミナーB	1	3
フランス語	基幹科目	フランス語総合1	1	1	韓国語	基幹科目	韓国語総合1	1	1
		フランス語総合2	1	1			韓国語総合2	1	1
		フランス語総合3	1	2			韓国語総合3	1	2
		フランス語総合4	1	2			韓国語総合4	1	2
	発展科目	フランス語コミュニケーション1	1	2		発展科目	韓国語コミュニケーション1	1	2
		フランス語コミュニケーション2	1	2			韓国語コミュニケーション2	1	2
		フランス語コミュニケーション3	1	3			韓国語コミュニケーション3	1	3
		フランス語コミュニケーション4	1	3			韓国語コミュニケーション4	1	3
		フランス語カルチャーセミナーA	1	3			韓国語カルチャーセミナーA	1	3
		フランス語カルチャーセミナーB	1	3			韓国語カルチャーセミナーB	1	3

4. 外国語科目の履修方法

外国語科目の履修については、Ⅱの2の「履修登録制限」と「進級・卒業の要件」に示した規定に加え、以下の細則を設ける。

- ① 履修登録は原則としてクラス制を採用する。
- ② 第一外国語科目のうち、1学年配当の英語1L、英語1R、英語2L、英語2R、オーラルイングリッシュ1、オーラルイングリッシュ2は1学年において、2学年配当の英語3T、英語3R、英語4T、英語4R、オーラルイングリッシュ3、オーラルイングリッシュ4は2学年において、必ず履修登録をしなければならない。
- ③ 外国語科目の卒業単位（20単位）はすべて第一外国語（英語）で満たしてもよいが、第二外国語を1学年から3学年までにおいて合計6単位を修得することが望ましい。
- ④ その他、外国語科目の履修については、「経済学部授業計画」を参照すること。

IV. 専門科目の履修

1. 専門科目の構成

経済学部では、経済学科、国際経済学科、総合経済政策学科において、それぞれ別個の専門科目体系を編成しているが、各体系における専門科目の分類方法ならびに履修方法は共通である。

専門科目は、「専門基礎科目」と「専門基幹科目A」と「専門基幹科目B」とに分類され、「専門基礎科目」は各学科のそれぞれにおいて基礎的な性質を持つ学科目を、「専門基幹科目A」は学習上より高い段階にある学科目を、「専門基幹科目B」はより広い視野で学習するために必要な学科目を表す。

また、専門科目は、「学部共通科目」と「学科共通科目」と「コース科目」と「分野科目」とそれ以外の科目（他コース・他分野科目）に分類されている。

「学部共通科目」は、いずれの学科の学生にとっても必要な基礎的学科目である。

「学科共通科目」は、それぞれの学科において、いずれのコース・分野を修得しようとする学生にとっても学習上必要な学科目から構成されている。

「コース科目」と「分野科目」は、経済学科に開設されている経済心理学コース、各学科に開設されている各分野のそれぞれを深く学習するために必要な学科目から構成されている。なお、「コース科目」には、より専門性が高く専門の特性により人数を制限する必要のある「固有科目」が含まれる。

2. 専門科目の履修方法

専門科目の履修については、Ⅱの2【履修登録制限】と【進級・卒業の要件】に示した規定に加え、以下の細則を設ける。

① 他学科の学科目を履修することはできない。

教職課程履修者については、この限りではない。ただし、学部事務部へ申請のうえ許可が必要である。また、教職課程履修者が他学科の科目を履修しても、進級、卒業に必要な単位に組み入れることはできない。また、経済学科に開設されている経済心理学コースの固有科目は経済心理学コースの学生以外は履修することができない。

② 学部共通科目（1学年配当）のうち、ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、コンピュータ実習Ⅰ、コンピュータ実習Ⅱ、コンピュータ実習Ⅲ、コンピュータ実習Ⅳは1学年において必ず履修登録をしなければならない。

経済学科については、学科共通科目のミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅱを1学年において必ず履修登録しなければならない。

国際経済学科については、学科共通科目の基礎国際経済学、専修英語Ⅰ、専修英語Ⅱ、基礎中国語Ⅰ、基礎中国語Ⅱを1学年において、専修英語Ⅲ、専修英語Ⅳを2学年において必ず履修登録をしなければならない。

③ 学部共通科目の統計学Ⅱを履修するためには、統計学Ⅰを単位修得していなければならない。

- ④ 学科共通科目（情報専門科目）のコンピュータ特修実習Ⅰ、コンピュータ特修実習Ⅱ、コンピュータ特修実習Ⅲ、コンピュータ特修実習Ⅳを履修するためには、コンピュータ実習Ⅰ、コンピュータ実習Ⅱ、コンピュータ実習Ⅲ、コンピュータ実習Ⅳを単位修得していなければならない。また、コンピュータ会計Ⅰ、コンピュータ会計Ⅱを履修するためには、簿記論Ⅰ、簿記論Ⅱ、簿記論Ⅲ、簿記論Ⅳを単位修得していなければならない。
- ⑤ 分野選択について
- 2学年の履修登録時に分野選択し、分野別専門科目履修表に従って履修することが望ましい。ただし、**経済学科**では、経済学コースと経済心理学コースの2つのコースに分かれる。さらに、経済学コースについては、4つの分野に分かれる。2学年の時点で、経済学コースか経済心理学コースかを選択し、経済学コースを選択した学生は分野の申請も行う。両コースとも希望者が多い場合は、選考を行う。
- ⑥ 演習の履修について
- 演習Ⅰ（必修）**は3学年で必ず履修登録しなければならない。**演習Ⅱ（必修）**は4学年で必ず履修登録しなければならない。
- 演習は、2学年を対象に、所属しようとする演習の受講可否の選考がおこなわれる（ただし、学科または分野を指定した募集がおこなわれることもある）。
- 4学年配当の卒業論文（4単位）は、4学年において履修登録をし、学生が所属する演習の担当者の指導を受けなければならない。
- 演習の履修の詳細については、2学年に配布される「経済学部演習要項」を参照すること。
- ⑦ 外国語演習について
- 外国語演習は通年4単位の科目であり、**外国語演習Ⅰ**は3学年配当科目、**外国語演習Ⅱ**は4学年配当科目として開講する。外国語演習Ⅰ、外国語演習Ⅱのどちらか（1科目4単位）だけを履修しても、両方（2科目8単位）を履修してもかまわない。
- ⑧ 特殊講義については、学年配当を変更して開講されることがある。
- ⑨ **インターンシップの履修について**（学科共通科目 3学年配当 2単位）
- インターンシップは、学生が在学中に、民間企業や自治体などの実社会で職業体験をし、社会のニーズや実務に必要な知識を認識することによって、将来のキャリア形成に向けた学習意欲の向上を図るための制度である。なお、インターンシップの履修内容については、3学年に配布されるインターンシップに関する要項にて案内する。